

万博計画具体化検討ワーキンググループ準備会議 議事要旨

日時：平成31年3月6日（水曜日）13時～15時

場所：経済産業省別館2階227各省庁共用会議室

出席委員（五十音順）：石川委員、齋藤委員、佐野委員、澤田委員、豊田委員、西口委員、橋爪委員

有識者（五十音順）：江原 規由氏（一般財団法人国際貿易投資研究所 研究主幹）、五月女 賢司氏（吹田市立博物館 学芸員）、寺本 敬子氏（跡見学園女子大学文学部 講師）、中牧 弘允氏（吹田市立博物館 館長／国立民族学博物館 名誉教授）

議事概要：各有識者からの大阪・関西万博の開催に向けたご意見紹介の後、WG委員と有識者とのフリーディスカッションを行った。主な意見は以下の通り。

（中牧氏）

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 周りの人が2025年博を「カジノ万博」と呼ぶのを聞いて非常にショックを受けた。そういった意見乗り越えて開催するために何が出来るか。例えば、IRには国際会議場があるのでそれをフル活用し、世界のインテリゲンチアを千人、1日5、6名集め、連日講演、セミナー、ワークショップ等を展開する。成果として大正大蔵経のような百冊の本にまとめるなど万博で行えば、カジノの陰も消えていくのではないかと思う。

（事務局）

- ・ 万博会場予定地の隣接地に大阪府市がIRを誘致しようとしていることと、この万博を結びつけて一部の方々が「カジノ万博」と呼んでいることは承知している。この万博と、隣接地で誘致しようとしているIRは個別のプロジェクト。IR誘致の成否に関わらず万博は開催していく。

（江原氏）

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 周辺地域にとどまらず全国から参加してもらうため、都道府県の共同館を作る、また、外国人来場者を意識し、例えば在留者、留学生を含めた外国人の参加を促進するなど、展示・企画を工夫することが必要ではないか。

- ・ 万博のレガシーはこどもに残るもの、形にする必要はない。特に小・中学生の心に将来残るものを展示すべき。
- ・ 上海万博ではB I Eの提案で整理券が配布されたが、転売などの問題が発生した。暑さ対策は重要ではあるが、整理券の導入については慎重であるべき。
- ・ 交流のための資金は、接待費として批判され削られる傾向にあるが、交流にとって必要なものなのできちんと確保すべき。

(寺本氏)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 2025年博では、モノの展示だけでなく、人類の「知」の交流の場として、国際的に解決すべき普遍的問題について議論する国際会議を開催し、「万博と国際会議の同時開催」を将来に残すレガシーとしてはどうか。また、1970年以降の万博開催数は日本が最多。例えば、B I E事務局のアジア支局を設置するなど、2025年を契機に日本をアジアにおける万博の運営・研究の拠点としてはどうか。
- ・ 2025年博の検討段階からの資料保存について徹底をお願いしたい。これらの資料自体がレガシーとして将来に残すべき知的財産となる。

(五月女氏)

- ・ [意見書に基づき説明]
- ・ 大阪は地方の代表としての側面がある。大阪が頑張り万博を開催することで地方を力付けられればよい。
- ・ 会場では、西方浄土からの夕景を活かし、命や尊厳を守る象徴としてのテーマ館「いのち輝く未来館」が夕陽を浴びるとさらに「輝き」を増すなどの仕掛けがあっても面白いのではないか。万博跡地（夢洲の南側）は緑地化させたり、干潟にしたりと、憩いの場とすることも一案。
- ・ 周辺地域、すなわち吹田の万博記念公園のほか、大阪・関西に立地する博物館などの既存施設やエコミュージアム、町並みなどを利用して、2025年万博のテーマに沿った滞留形のワークショップや議論を行う拠点としてはどうか。

(石川委員)

- ・ 私が専門とする予防医学分野においても、従来の「病気の発生を予防する」というところから、Well-being、まさに「いのち輝く状態を目指す」ということへ、焦点が移ってきている。

- ・ 万博は目を開けて見るコンテンツだが、今流行のマインドフルネスは目を閉じて自分の内側を顧みるコンセプト。自分の内側に課題がある。
- ・ 例えば、「ゼロ・エミッション」など、対峙する社会課題が明確に見えればそれが一つの大きな方針となる。世界の社会課題が多様であるところ、最上位のコンセプトである「いのち輝く未来社会」が、要するにどういうものなのかをきちんと見せなければいけない。それは子ども達が夢中になるものでなければならないし、日本全国の自治体も夢中になるようなものでなければならない。
- ・ 個人の多様な価値観が尊重されるようになり、社会課題も多様化してきている中で、「いのち輝く」ということが何を意味し目指しているのかを、これからのWG全5回で具体的に議論していかなければならない。

(斎藤委員)

- ・ 展示だけでなく、そこで集まって議論し、社会課題の頭出しや解決糸口をつかんで各国に帰って頂き、それを流布することで、日本や、それ以外の世界の国とのつながりができる。
- ・ テーマの中で、「普遍性」や「持続的発展」を因数分解しなければいけない。「いのち輝く未来社会」は医療に限らず、経済など、どんな分野でも括める。哲学的に因数分解し、どの分野にどんな括まり方、参画の仕方が出来るのか、もう少し明文化しないと、輪郭のないものになってしまう。自動車産業、農業など色々な方向があると思うので、文化的なものも通じて、サブテーマのようなものを考えなければならない。
- ・ (江原研究主幹が述べたように)日本全国から参加できる万博、はまさにその通り。上海万博が70年大阪博に勝てないところ。インフラの向上により、移動時間がどんどん短縮され、色々なところに簡単に行けるようになっていく。大阪万博を目次、ハブとして、解決方法の本物を日本各地に見に行くという事もできるのではないか。
- ・ 70年博会場と2025年博会場は車で40分から1時間位かかるようだが、70年博のレガシーが多く残り、研究も進んでいるので、50年前、当時世界が何を考えていたのか、企画展示することも考える必要がある。
- ・ 70年博のように、若手の才能が出る場所になっていくと、日本で発表したものを世界に持っていくというアウトバウンドの良い機会になると思うので、意見を求めたい。

(佐野委員)

- ・ 東京と比べ、関西では万博の身近さが全く違う。「万博は日本以外でもあったのか」「明日も万博（千里の万博公園のこと）に行く」と言う学生がいる程。この土壌は心強い要素であり、有効に活用していくべき。
- ・ 今日の一連のお話を伺って、大切なのは「いのち」というキーワードを広くとることであると、あらためて確信した。医療関係は一つの軸ではあるが、あらゆる意味でのいのちの問題に広げていかなければならない。私たちがその意識で議論を重ね、どんな分野の人も企業も、この万博のテーマとつながっていることが伝われば、つながり方まで示さなくてもそれぞれが自分で見つけられると思う。その意味で、「いのち」は本当にいいテーマ。決して矮小化することなく、人類の将来を考える大きな万博にしたい。
- ・ 国際会議の提案をいただいたが、それだけでなく、万博全体を巨大な議論の場にしたい。古代の民主主義のように、あらゆるパビリオンや会場各所でいのちの問題を投げかけ、議論する。その際、「いのち輝く」とはどういうことかについて答えを示す必要はないと考える。日本としてはこのように考える、ということ十分に議論の上で表現することは求められようが、参加国それぞれの文化から、このような「いのち輝く」があるのか、と学びあう、そういった多様性、寛容性の高い万博を目指したい。
- ・ 先日、教育学の専門家たちから、どうしたら子ども達を万博に向けた議論に巻き込んでいけるか、知恵をいただいた。曖昧に呼びかけるのではなく、小中学校などを対象にしたコンテストの枠組みを作り、例えば全国大会で発表したアイデアは万博会場で実際に活かされるといった、目に見える仕掛けをつくってはどうか。
- ・ 提案のあった関連資料のアーカイブ化は大変重要。同時に、日本はすでに万博研究の蓄積が非常に厚い国であることにも着目し、アピール要素としていくべき。万博発祥の地のイギリス・フランスの万博研究も厚みがあるが、1970年以降は日本の研究も匹敵しており、学問的背景がしっかりしていることは今回の万博の支えになるものだと思う。言語の問題もあって国際的には十分知られていないが、この機に日本の研究の英仏中訳なども万博開催の枠組みの中で手掛けてもよいのではないか。

（橋爪委員）

- ・ 中国では、2010年の上海万博に向けて、ロンドン・パリから上海につながるものとして、国際博覧会の歴史を上書きした。世界の文明が発展するなかで、中国がいかに博覧会にコミットしてきたのかを説明し、万博そのものの意義を語り直した。その成果を、万博ミュージアムの開館につな

げた。我々も、いま一度、博覧会に関する新たな語り方を持たないといけない。

(澤田委員)

- ・ (中牧館長が述べたように) インテリゲンチアが重要というお話をいただいたが、70年万博はインテリゲンチアが本気になっていたと思う。私はそれ以降の万博に携わっているが、インテリゲンチアが本気になったと聞いたことがない。日本の音楽系アーティストは、万博への出演依頼に対して好意的な反応が得られないが、海外のアーティストからは国際的なイベントに招いてくれてありがとうと御礼が来る。それだけ日本国内では万博に対するロイヤリティが下がっている。それを元に戻すには、現代のインテリゲンチアが積極的に万博の開催意義について発言しないと変わらない。
- ・ 万博で未来を示そうとすると、誰が本気になって参加し、未来を持ち込んでくれるのがキーだと思っているが、まずはどうしたらインテリゲンチアが本気になるのかアイデアをいただきたい。国際会議もあるが、世間一般とはつながっていない。

(中牧氏)

- ・ 例えばダボス会議は経済界が大切にしている会議。デンバーで行っているアスペンも、人類の問題を静かな環境で議論する場。そのような空間・アリーナの提供が2025年博で出来るのではないか。会場全体を対話の場とするだけでなく、世界をリードするインテリゲンチアを選んで、招待する。その圧倒的な数、先ほど千人と述べたが、国内の参加者と一緒に本気で議論させる。その成果を大蔵経に例えたがアウトプットとして残していく。それがレガシーではないかと思う。そういうアイデアは、単なる遊びであるカジノのようなものではなく、知的な遊び。ホモルーデンスがホモサピエンスと交わったような場になれば。遊びとは本気でやるもの、両方が相まって真剣度を増していけば。日本としてアリーナを提供することで、大阪、日本と未来にとって優れたレガシーを残せると思う。

(寺本氏)

- ・ 19世紀には万博において各分野の専門家による国際会議が開催され、特許制度など、一国では解決できない問題が議論された。これらの内容が、政治・外交にも影響をもたらした。しかし20世紀以降、万博における交流は縮小し、それぞれの専門分野も細分化している。もう一度万博と

国際会議を連動させるため、学際的・国際的に様々な専門家を呼ぶのがよい。SDGsをはじめ国際的に解決すべき普遍的問題について議論し、社会に提起する、これがひいては政治や外交の契機につながれば万博の意義がますます高まるのではないか。また、専門家の議論に加え、参加型のワークショップや、教育現場との連携といった工夫も取り入れていくと社会全体で考える機会になる。ミラノ万博に行ったが、展示だけの万博では伝わりづらいと感じた。議論して、考えていく作業に参加する場・機会を作ることが重要である。

(五月女氏)

- ・ 議論の重要性という話のなかで、色々な議論を行う上では、何か拠点が必要ではないかと思う。それも一つのレガシーになるかもしれない。BIEのアジア拠点の話もあったが、大学院大学や国立博物館など一つの目標があって、万博会場内外での議論が蓄積されて拠点に収まる、それが更にアーカイブとなって次の研究に活かされるとよい。

(石川委員)

- ・ インテリゲンチアには1.0と2.0がいると思う。いわゆる偉い人達、すでに著名で強い影響力を有しているBig BrotherがBig Issueを話し合う機会は既に多く存在しているが、若者は今更そこに参加しても新しいものを作れないと思っているので、SLUSH Asia等の場で、Small but UniversalなIssueを話し合っている。
- ・ 逆に言えば、Small but UniversalなIssueを取り扱う場であれば、若い人たちも積極的に参加してくれるだろうし、社会の課題と個人の課題をつなぎ合わせることが実現できると思う。

(斎藤委員)

- ・ (直前の石川委員のご発言を受け)なぜ若者が参加しないのか、ということについて。私は15年のミラノ万博に参画したが、それ以前はナショナルなイベントでは、いろんな事情を追う羽目になり自由に表現ができない、と考えていた。もちろん使用するものなど制約はある。
- ・ 愛知博はアフターインターネットという、非常に重要な時期に行われた。万博のプレゼンスが下がっているわけではないだろうが、他の国にどういうソリューションがあるのか、様々な会議で集まって話し合われているから、それぞれが知っていればよくて、みんなが知る必要がないという時期があったように思う。しかもインターネットで調べれば何でも出てくる。

- ・ 今から2025年に向け、課題先進国として日本は未知の領域に入っていくので、今シェアしないといけない時期。だが、日本の企業は隠してしまう。万博という場を用意して洗いざらい放出していいと思う。要するに、若者はこれまで掴まる場所がなかった。70年博を見ると羨ましいと思う。
- ・ 今、日本にパリコレデザイナーがたくさんいるのに何故こんなに衣装がダサイのか。何故超精鋭を集められないのか。(デザイナーたちは)集められないのなら俺は関係ない、となってしまう。それをリフォーマットし、世代、他の分野とのコネクションが出来、新しいアイディア、リテラシー、道徳が生まれるものにするため、まずはいろんな業界や若者が参加したくなるような仕組みを整えるべき。

(橋爪委員)

- ・ (ビッドドシエでは) Co-creation 強調、博覧会以前からネット上などでさまざまな議論を展開すると記載されている。リアルな会場に集まるということでもなく、大人数が一堂に会して大会議をやるわけでもなく、小さな尖った 이슈 にさまざまな議論がなされて、2025年博につなげていくというイメージだと考える。(議論の仕方として) 会場に来て集まってやるだけでなく、アバターが参加するなど、次世代型の会議を含めて考えていくべきではないか。一方でリアルな会場で、優れたレクチャーがあり、世界的に活躍している有識者が、その成果を持ち帰るということも大事。サラゴサ博のジャパNDERには、皇太子殿下が会場に来られて河川の歴史と課題について講演されたが、本当に素晴らしく感動した。
- ・ リアルな会場と、バーチャルな会場を重ね合わせるべき。2025年の当年と、それに至るプレの段階でどのような議論を展開するのか。70年博の時は、1966年に京都国際会館が完成して、万博参加者が集まる会議を、数回、実施したと聞いている。今回はこの種の会合も、リアルでやるのか、170カ国でバーチャルな会議をするのか。今後検討すべきことだと思う。

(豊田委員)

- ・ 今日は歴史的な文脈からのお話が多かった。委員会という時間の制約がある中で、これまでのみなさまの業績を大きくまとめて頂いた。それを掴まえて落とし込むことができずそのまま流れてしまう、なんてことにならないように、どうしたらいいかを今考えている。
- ・ いろんなジャンルのいろんなスケールの話が満載になっていて、今の解像度のままではそのまま聞き取るというのは難しい。産業や技術や安全なり

都市計画なりという万博に関する領域をどう定義してどう落とし込み、その中で歴史的にどう学べば良いのか、将来にどう生かしていけばいいのか、解像度を上げる仕組みが整備されないまま具体化されずに終わってしまうともったいな、と感じている。会場計画としては2022年には造成が終わって引渡し渡す必要があって、落とし込みができる準備期間は少ない。早急に解像度を上げていくことが不可欠。

- ・ 私は歴史が大好きで未来学としてとらえている。未来のベクトル・解像度を上げるのに不可欠なもの。日本は万博の歴史が非常に高精細にある数少ない国。ただ、過去のノスタルジアに引っ張られ勝ち。過去に引っ張られないシステムを作っていくか、歴史を学ぶことでどう未来を解像度高くみんなで共有できるのかということのを投げかけて、仕組み、例えば本とか会議に落とし込んでいく必要。70年博があれだけ成功しているので、それを再びというのはわかるが、価値の転換をしないといけない。「カジノ万博」という言葉に含まれる混交や誤用はしっかり訂正する前提で、あくまでアイデアを広げる目的でいろんな仮定的な検討、例えば「カジノ万博」があるとしたら何が面白いのかも議論してみるくらいの柔軟性や広がりがあるといい。
- ・ 19世紀のヨーロッパから見るとアジア、アフリカは未知の領域だったので、それを見るのに圧倒的な社会の興味があった。今は地理的な要因で未知の領域がほとんどない時代。今、未知の領域はどこにあるのか、それを見出すことが大事になると思った。

(西口委員)

- ・ やってはいけないこと、と言う観点から、議論や対話がない展示会にはしてはいけないと強く思った。議論や対話の形はいろいろあるが、仲間内の対話であれば、いつも至る所でやっているのだから、クロスセクターにしなくてはならない。宝ヶ池（京都国際会議場）での国際会議や大阪でも頻繁に行われているが、仲間内、顔見知りが集まっていることが多い。そうでない議論が万博の場で行われることが大事で、そこでフィジカル・バーチャル両方の展示があるのだろうと思う。
- ・ 次に議論の中身は、SDGs実現を謳って勝ち取った万博なので、そこだろう、と。SDGsというのは漠然としたものでなく、具体的な数値目標が設定されている。全世界で食品ロスを2030年までに半減、など。測定可能な数値目標が有り、「いのち輝く」と直結するもの。「いのち輝く」と一口に言っても、平均寿命80歳以上の日本と55歳のナイジェリアとでは、マラリアで苦しむ地域と少子高齢化で引退後30年どう過ごすかと悩む地域とでは、「いのち輝く」の意味が違いすぎる。海外の多様な「いの

ちの輝き方」を理解していないまま一方的な日本の価値観、比較的平和で健康な国の価値観だけで万博デザインをすると、総スキャンを食らいかねない。「SDGsで問うている課題」×「いのち輝く」で万博を企画の中で考えていくべき。

- ・ 2025年は30年の目標年次の直前なので、何らかの変化が始まっているはず。例えば、食品ロスが減ってきているのか、増えてきているのか、など。モニタリング動向を国連と連携しながら毎年綿密に企画していく必要があるのではないか。

(江原氏)

- ・ 万博は変わりつつある。中国は最近万博の世界でガバナンスが強い。中国からは過去BIE議長を輩出したが、日本からはない。日本から代表を送り込めないか？これは目的ではなく手段だが。上海万博が決定する直前、アジア初、中国出身のBIE議長が就任し、上海万博に貢献した。上海万博はそこまで評価されるものではないが、その後BIEの肝いりで最近万博博物館ができた。日本がやればもっとまじめにできるはず。誰を議長として送り込むか。BIEとの関係を深めることで、議論がもっと明確になり、解決策のようなものが出てくる。万博のガバナンスに入り込むのは一番重要で、可能ではないかと思う。今は転換期。ぜひ、大阪・関西万博のレガシーとして、議長を出して新しい息吹を日本から吹き込むことがあってしかるべき。

(石川委員)

- ・ SDGsは数値化できるのかもしれないが、「いのち輝く」は数値化しにくいのではないか。
- ・ (SDGsの議論とは別に、)世界的に「生きがい」という概念が注目され広がっている。この概念を考えるにあたり、履歴書と死亡記事という2つの視点があるのではないかと思う。高齢になるにつれて履歴書に記載する経歴は重要ではなくなり、むしろ、自分が死んだときに(米国的な)死亡記事に記載される内容、つまり、履歴書には表れない生活の質が重要となってくるのではないか。
- ・ 生きがいは人それぞれであるところ、先ほど述べた Small but Universal という考え方の重要性は増していくだろう。

(五月女氏)

- ・ 本日の会議の初めの方で、日本寄りの話をしてしまったが、私自身も世界に総スキャンを食らわないような万博にしたいと思っている。

- ・ この会議に、アーカイブの専門家を招いてあり方を考えて頂ければ、と思う。2025年万博に向けての現在進行形のアーカイブ収集・保存・活用と、1970年万博のアーカイブ保存・活用の両方の視点が必要であり、そのために専門職員、すなわちアーキビストや学芸員などを雇用することも検討願いたい。
- ・ なお、本日私が話すにあたっては自身の意見のみならず数十名に聞いてまとめた意見なので、申し伝える。

(橋爪委員)

- ・ 本日のヒアリングにあって、万博を人類共通の課題解決の場と再定義し、学術的に普遍的な問題について意見を交換されてきたことを再確認した。2025年の博覧会では、どのような議論がどのように生まれてくるのか、方法論も含めて、計画段階から注視されていたことだが、その重要性を本日再確認することができた。
- ・ 未来社会の課題や未来の技術を含め、「いのち輝く未来社会とは」の姿についてキッチリ示すべきだという意見もある一方、西口委員からあった「いのち輝く」という認識に関する世界的な多様性を示していくべき、との意見もあった。テーマ展開に関しては、テーマ館での展示がある一方で、各国各企業にテーマやサブテーマなどで展示の条件を伝えることになるが、あまり強く制限すると各館の展示やメッセージが同じようなものになる恐れがある。「必ずSDGsに対する貢献を示してください」という条件を付与するののかも含めて、検討課題である。
- ・ 全世界、全国、全世代が興味をもって参加する万博にすることが重要。70年博では自治体館が共同館で出展したが、その形でいいのか、といったことを考えないといけないが、上海万博では省市館が非常に人気でかなり面白かったと記憶する。
- ・ 博覧会は物の展示だけでなく、「人」の交流・交歓が促されることにも本質があった、ということが確認された。私は2025年大阪・関西万博の会場である夢洲は、四天王寺西門の西にあって、かつて日想観を行った人達が眺めた海を埋め立てた場所であることに注目している。さらに西側に軸線を伸ばすと、神戸空港、明石海峡大橋があり、さらに西に夕日は落ちていく。大阪と会場を結ぶ軸は、大陸、さらにははるか世界に繋がるイメージ上の軸があり、そのつながりを意識することも必要だと、これまでも繰り返し申し上げてきたことである。お祭り広場を継承する交歓する場として「空」を想定、リアルとバーチャルとを重ね合わせて、テーマ性に沿った催事を同時多発させたいと考えている。

- ・ レガシーについては、さまざまな意見をいただいた、こんなことはダメだというのも一種のレガシーであるという考えもあった。子どもたちの心に強く訴える方法を考えなければいけない。1970年万博では、大阪では学校教育と連動、副読本が各校に配られていた。関西の小学校では、遠足で万博見学に出向いたところが多かったように思う。
- ・ 1970年に開催された大阪万博との繋がりを見せる仕掛けを作ることも大事。千里や鶴見のサイトと連携していくのは大事だし、それと関係してさまざまなドキュメントを残し、アーカイブを考えることも大事。
- ・ 起爆剤という言葉など、国際博覧会の趣旨に本質的に合わない言葉は使わないよう、肝に銘じたい。